

第5回 小学校再編に関する地域住民説明会（児安小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月30日（月） 19時開始
- 場 所 : 児安小学校 1階 会議室
- 参 加 者 : 21名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他7名
（事務局）
- 内 容 : 1.開 会
2.教育長あいさつ
3.教育委員会職員紹介
4.配布資料確認
5.説 明
① 小学校再編に向けて
② 小松島市立学校再編基本計画（案）
③ 学校施設の利活用
6.質疑・応答（意見交換）
7.閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○2030年度の生徒数が1,125と出ているのが、その予想に関してちょっと甘いのではないかと思う。だいたい全国的には今から10年後には生徒数は半分になるのに、小松島がそれよりも3分の2、今から12年後に残っているのは甘いのではないか。実施時期をいつ頃と考えているのか。

→（回答）

昨年度、「基本計画（案）」を作る時の数字から比べると、当然人口減少というのは加速をしている。どんどん子どもさんの数が減っていくということで、そういった状況には違いないという認識である。「基本計画（案）」の中で2030年というのをお示しさせていただいているが、そこまでには完了したいと考えている。

○児安は残してほしいが、児安がなくなるのであれば、公民館の管轄にして体育館の管理とかそういうのは、建物の管理を公民館でやって、修復して利用していく。公民館は地域性があるので残してもいいような気がするのだが。公民館は小学校と分けて考えた方がいいのでは。

→（回答）

小学校再編に併せてもし仮に小学校が3校になった時に公民館も3館にするのかといっ

た連動性は併せては行っていない。今現状では施設とかそういった事業については切り離して考えていくというのが1番のベストの選択ということで教育委員会も考えている。

○新しい校区設定して全市内の校区割りをもういっぺん考えるべき。それでなかったら、今のままでいったら南校のところだけがものすごく増えて、後のところってものすごく通学距離に差が出てくると思う。

→ (回答)

学校単位の再編であるとか、1回シャッフルして全体のというのものもある。が、あくまでも基本は今のところ11小学校の校区というのをまず前提にしていく方が、いろんな意味の地域活動という事についてもまず校区単位で行われていて、これからの小学校再編を進めていく原則的な考えとしては、校区単位の方が非常に住民の方とか地域の方も理解がしやすいのではないかと。そういったことで、校区単位を進めていくという基本的な考え方にさせていただいている。

○2030年度の児童数の数字が上がってきているのか根拠がまず何かということをお願いしたい。

この時点でこの3校、4校にしますというのをしっかり出していただきたかった。

「パブリックコメント」はどのような形で募集されるのか。

→ (回答)

1,125人という部分については平成23年から28年までの3月末までの住民基本台帳の年齢別の人口をもとに5年間の年齢別の人口動態率、それと死亡率によって平成29年3月末以降の年齢別の人口をまず推測している。そういったことで、0歳児の人口については各年度の15歳から49歳の女性の推定人口数と、平成27年度の合計特殊出生率、これ1.45という数字があるが、これに基づいてまずは推測しているところ。

3校程度にしてどことどこのどの小学校の1つの括りをするためには、やはり1つの基準がある。有識者会議の時には1つの基準線というのをしてそれについては何パターンかお示しをしており、市のホームページの「基本計画(案)」の中にはそういった資料を付けさせていただいている。

「パブリックコメント」する時に、いろんな手順とどのような方法があるかという事について詳しくお伝えするが、広報誌であるとか、ホームページ、そういったことにはなろうかと思う。

○通学方法及び安全性の確保ということで、「原則徒歩とするのはおおむね2kmから3kmの範囲内、それを超える場合は通学支援を実施します」と書いてあるが、2kmから3km以内というのはどういう基準で決められたのか。

→ (回答)

今、小松島市内で南小松島小学校、路線バスが走っているところであるが、市の方でバスを借り上げて小学校1年生・2年生の子供さんを対象に赤石駅から南小松島小学校の間まで専用のバスを貸し切ってやっている。そういった子どもさんの平均距離というのが、だいたい2キロ半くらいということが今現状である。新たに学校再編をやった場合についてもその範囲というのが一番妥当なのではないだろうか、ということでこういった形の一つの基準ということでさせていただいている。

○現状、南小学校の子が1年生の2kmの子が皆歩いているかどうかはよくわからないのだが、実際2km、3kmを小学校1年生の子が歩けるのか。この範囲までというのが決まっているのか。その時にスクールバスの対象じゃないから歩いていきなさいというのはすごく過酷だと思う。夏は猛暑だし冬も寒いし、朝も早く出ないといけない、そういった時にコミュニティバスとかスクールバスとか、どの範囲まで広げるのかちょっと具体的に示していただきたいと思う。今でなくても結構だが、具体的に示していただきたいと思う。

→ (回答)

学校の場所が決まった段階でいわゆるどこからどこまでが通学支援として必要なのか、出てこようかと思う。おっしゃっていただいたような意見を配慮する中で考えていきたいと思う。

○この着手・作成が、もしどんどん決まっていって平成31年度に話が進んでいたとしたら、平成32年度くらいからはもう建て替えとか、新しいものを建てるとかいうふうになるのか。それとも、もうちょっと先になるのか。

→ (回答)

1つの例として小松島南中学校の例があるが、中学校を建てるのに設計だけでも2年はやはりかかった。基本設計とか実施設計とか。一旦設計ができて、いわゆる建設工事に着手して2年ということになるので、そういったことを踏まえて先程のこれからでいうと、平成32年度にはスタートできるのではないかと。なってくる。詳細な計画というのは、「実施計画」を作ってスタートはどこになるかといえば、これからいうとスムーズにいくと平成32年ということになってくるが、さっきお話しさせてもらった南中学の場所が、市の土地があったというところ。小学校再編はどういった場所にどういったところもあるので、そんなことを踏まえて、土地があったとしても南中学の場合も含めて4年はかかっている、ということにはなるので、少なくともそういったことを踏まえて、開校時期を決める必要があるのかなあというのが今現状での考え方。平成32年度スタートしてすぐ1、2年でというのは校舎を新しくする場合というのは、当然なかなか厳しいなというところもある。最終的には、学校再編の場所をどうするのかにもよって変わってくるというところもあるが、最速でも場所があつて4年はかかるという現状。

○では、もし新しい場所に建てるのではなく、例えば児安とか南とかそこを広げて新しく建てるなら、建て直す時にその時に通っている子どもたちはどこか違う場所で学んだりするのか。

→ (回答)

いろいろなケースが想定されると思う。もし仮に児安小学校に新しい学校を建てるという、一般的には「運動場」という話が出てくる。今の既存の施設の広さでいいのかとかいろんな要素も出てくる。他市の学校ではグラウンドに校舎を建てているところもある。そのような場合には、校舎を建て替えている時にグラウンドが使えるとか使えないとかといった話になってくる。児安小学校も建て替えをしようとした時に、そのようなことを加味する中で、いつ新しい学校が開校するかということも考えた上で、「実施計画」で開校時期とかを見極めていく必要があると思っている。